



染錦手葡萄栗鼠図花瓶 精磁会社 明治前期 一对 陶磁 各径52.0 高97.8

明治前期の有田を代表する製陶会社である精磁会社製の花瓶。古代文様が採用された首部や耳飾には明治前期の様式を強く感じさせるが、胴部の葡萄に栗鼠の図様は、染付を生かしつつ薄めの色彩の上絵によって写実的に描かれている。写真資料により、七宝会社の「七宝藍地花鳥図花瓶」(45頁参照)の代わりに配置されていた様子を確認することが出来る。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

幻の室内装飾 ―明治宮殿の再現を試みる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 56

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年九月二十三日発行

© 2011, The Museum of the Imperial Collections